

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0692400021		
法人名	株式会社ジェイパック		
事業所名	もも太郎さん(大石田)		
所在地	山形県北村山郡大石田町桂木町2-3		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 14 日	開設年月日	平成 20 年 7 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6 年 11 月 7 日	評価結果決定日	令和 6 年 12 月 5 日

(ユニット名 かつら)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目の前には田園風景が広がり、晴れた日には鳥海山を臨むことができる、のどかで過ごしやすい環境に事業所があります。8月には施設内から最上川花火大会が観賞できるのが自慢です。食卓には地元の新鮮な野菜を使った家庭的で季節感ある料理がならびます。もも太郎さんグループのスローガンに「あなたの笑顔は私の鏡です」を掲げ、笑顔あふれる事業所を目指しています。ご入居者様一人一人に寄り添った支援を心掛けております。行政機関や地域の方々との関係、ご家族様との絆を大切にしていきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念の「感謝の心」「共に生きる」をもとに、職員は利用者と共に感謝の気持ちと家族同様と一緒に楽しく生活できるように支援しています。レクリエーション活動を多く組み入れ、ゲーム等では皆が楽しく笑顔が見られています。利用者の好きな食べ物を料理に取り入れて、食材の下ごしらえなどを進んで行い、豊富なメニューの他に行事食や季節のものも取り入れ、毎日の食事を楽しみにしています。また職員は当番制で食材の買い出しを行い、三食手づくりをして美味しく食べてもらえるように腕を奮ったごちそうを食卓に出しています。利用者は本社の教育委員会で作成した身体拘束廃止や虐待防止の研修資料を使い研修を重ねて、全職員が理解を深めて身体拘束や虐待の無い介護に取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由」と「家族の絆」という会社の理念を掲げている。事業者としては「感謝の心」「共に生きる」を掲げ、理念を共有するために玄関やリビングに掲示し職員会議の際に唱和している。職員全員が意識して日々の業務に取り組めるようにしている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板やお知らせを通じて地域の方々と交流を持っている。町役場や社会福祉協議会主催の催し物や、大石田町の老人クラブ主催の輪投げ大会に参加したりもしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大石田町の認知症カフェ(虹カフェ)に入居者様と一緒に参加している。まだ参加している状態だが今後は事業所側からも役にたてるようにしていきたいと思っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、開催を予定し実施している。感染症の発症状況により開催できない時もあるが、書面を提出し開催の代替えとさせて頂いている。区長さんより、水害時の地域内の協力の必要性の話があり、協力をお願いしたところであった。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の方は運営推進会議のメンバーでもあり、会議の際に入居者様の状況や事業、行事の報告を行っている。各手続きなど、不明な点の相談をさせて頂いている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開催し、職員一人一人が身体拘束をしないケアを理解し取り組んでる。「身体拘束廃止委員会」を設置し3か月に1回、開催している。不適切な言動がないか、ベッド柵の使用、車椅子の使用は適切かなど話し合い、改善に努めている。	身体拘束廃止に関する指針に基づき、身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、何気なく使っている言葉の拘束がないかなど研修を行い理解のもとに介護を行っている。利用者の人権を尊重した対応や支援をしているが、事業所から出る方がいることから事故防止のため玄関にセンサーを設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で注意しあえる環境を作り、言葉遣いについても注意しあっている。他の行動を見て自分の行動を振り返るよう話し合っている。虐待や不適切なケアについての勉強会を開催し絶対にあってはならない事であると全職員が再認識している。	高齢者の虐待防止に関する指針を設けて、事業所内やホームページから誰でも閲覧可能にしている。成年後見制度等の情報を利用者や家族等に提供し、必要に応じて社会福祉協議会や関係窓口へ案内をしている。虐待防止の研修を行い、言葉遣いなど気づきがあった場合は職員同士で注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業を利用されている方もいる。支援員の方と定期的に連絡を取り合い相談している。現在、成年後見人制度を利用している方はいないが今後、必要になった時は関係機関と相談し支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所時に締結している。解約(退所)については、重要事項説明書に記載してある。十分な説明を心がけ、疑問や不安な点については納得して頂けるまでお話ししている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議にご家族様代表の方に出席して頂いている。ケアプラン更新時や連絡をした際など、意見を伺っている。	利用者の体調変化があった場合は、家族等に連絡し意見や要望等を聞き出すようにしている。以前にAEDの設置が必要ではないかと意見をもらい、本社に要望書を提出した後に全事業所に設置され意見の反映に繋がっている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員からの意見を聞き、運営に反映させている。又、ケアマネと主任を中心に日頃から意見や提案を言いやすい環境を作っている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与、各手当、各自の資格などが給与にも反映されている。又、時間帯を決めることで休憩も取りやすくなっている。働きやすい環境作りに努めている。	職員の有給休暇は全て取得させており、急な休みには職員が協力しあって働きやすい環境にしている。仕事の関係で勤務時間外が発生した場合には手当を支給しており、不安なく意欲を持って働けるようにしている。	
13	(5)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議時に勉強会を開催している。ジェイバックの山形ブロック主催の介護技術研修会が年3回予定され受講している。教育委員が年間計画を立てて取り組んでいる。	教育委員が作成した年間研修計画に沿って研修を実施している。内部研修では職員を割当制にして各自が勉強して講師を努めている。新人には事業所の運営や重要事項等の説明を管理者が行い、介護現場は職員と1対1で行い、質問への返答やアドバイスは指導係が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者、教育委員は会社内の会議に出席し情報共有を図っている。外部研修においても、リモート以外の研修も増えてきている。現状は参加が出来ていない状況の為、参加するようにしていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のカンファレンスの際、ご本人様の気持ちに寄り添いながら話しを聴くようにしている。把握が困難な方についても、関りを多く持って、信頼関係を築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のご家族様の不安を出来るだけ取り除けるように、こまめに連絡、報告、相談をして話しをする機会を作っている。又、来所された際は、世間話などで和んでいただき、気兼ねなく話しができる雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集をし、ご本人様やご家族様の意向を大切に、望む生活が出来るように個々に合ったサービスの提供に努めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念に「共に生きる」を掲げ、理念に基づく支援が出来るように心掛けている。一緒に作品や飾り物を作ったり、語らう時間を作るなど、同じ時間を共有し一緒に泣いたり笑ったりと思いやり寄り添いながら関係を築いている。	職員は、朝の挨拶に始まり常に声がけを行い、話しやすい雰囲気をつくり明るく生活してもらっている。レクリエーション活動にはトランプ・かるた取り・輪投げ等を提供し、それぞれ好きなもので楽しく過ごしている。利用者から言われたことは否定せず、傾聴に徹底し利用者本意に合わせながら支援をしている。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	制限付きではあるが、面会を行っている。電話はいつでもお繋ぎしている。職員は電話やお便りで生活の様子をお伝えし、身近に感じて頂けるように何かあれば相談し合っ一緒にご本人様の事を考えられる関係が築けるように努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の為、入居者様のご家族様や友人、親戚の方と外出、外食する事が出来ない。感染が発生している状態でなかなか制限を解除する事が出来ない。医療機関においては、入所前からの主治医の診察を受けることができる。	小学校の運動会を見学したり、老人クラブ輪投げ大会への参加をしたりしている。また新春かるた取りや月1回の認知症カフェへに参加して馴染みの方とも会って喜んでいる。感染症がまだまだ懸念されボランティアの受け入れを制限しているが、感染状況を見ながら再開を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の良し悪しや介護度の違いなどに配慮しながら職員が間に入り、お互いの思いを尊重しながら生活出来るように支援している。毎日のレクリエーションや家事など入居者様同士が交流を持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様やご家族様にお会いした時には、近況や体調面を伺い、必要に応じて相談にのるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や職歴なども考慮して、個々のやりたい事や出来る事を把握し、ご自分のペースで楽しみのある生活を送って頂けるように努めている。ご本人様の意向を確認する事が困難な場合にも、表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や知人の方からお話をうかがったり、ご本人様とお話を重ねていく事で把握に努めている。又、以前のサービス利用の経過についても関係者に情報を提供しごいただき、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のペースに合わせて支援が出来るように努めている。入居者様の不安の訴えなどに耳を傾け、気持ちをくみ取れるように職員間で情報を共有し、日々の変化を見落とさないように気を付けている。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室の担当者を中心にカンファレンスを実施し、ご本人様とご家族様の意向もお聞きし介護計画を作成している。ご本人様の思いが尊重され、安心して穏やかな生活を送っていただけるように、ADLの変化なども考慮し随時、見直しを行っている。	転倒による事故防止を最優先に、利用者に合わせて器具を使い機能維持訓練を取り入れた介護計画を作成している。計画は全職員が入りユニット会議で作成し、見直しは3ヶ月毎に更新するが、利用者に変化が見られた場合はその都度見直しを行い変更している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンス、会議時に出た意見や気づきは記録し、より良い支援へ繋げている。介護計画に沿って支援を提供し、その結果を個別記録に記入している。又、インシデントノートを活用し些細な事でも報告し改善に努めている。	職員は毎日の生活の中で利用者一人ひとりの要望や気づきを記録に残し、その記録をもとに検討して様々なレクリエーション活動を実施している。 会話が少ない方や言葉で表せない方には、昔のことなどを会話したり筆談で理解してもらったり、工夫した対応で笑顔に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、入所前に利 用していたデイケアなどの継続を主治医と相談したり、ご家族様の状況、希望に応じて社会福祉協 議会の支援の利用を取り入れたりし、取り入れられる サービスの利用を検討し実施に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支 援している	ご家族様や知人、行政、社会福祉協議会、いきつ けの床屋などの協力を得ながら、今までの生活が 継続出来るように支援している。これらの方々と関 わりを持ち、今後も支援につなげていきたい。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、 かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様の意向を大切にし、かかりつけ 医への受診を継続している。希望によりご本人様の 状況に合わせて、24時間対応可能な訪問診療の 利用の選択肢もご提案している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切 な受診や看護を受けられるように支援してい る	一人一人の体調に気を配り、変化に気が付いたら 職員間で情報を共有し、医療機関に相談してい る。又、24時間対応可能な訪問診療を利用されて いる方については、変化時には看護師に相談し、 訪問看護や診療を受け、適切な医療が受けられる ように支援している。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。又は、入院治療が必要な可能性が生 じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係 者との関係づくりを行っている	入院時には必ず職員も対応している。退院時も病 院、ご家族様との連携を密にしている。又、情報提 供書によりホームでの生活の様子や、入院中の様 子を共有している。	利用者が入院する場合は、主に管理者やケ アマネジャーが主治医や協力医の紹介状と 併せて介護情報を医療機関へ提供してい る。退院時は担当看護師等や家族等から情 報をもらい再入居に備えたり、薬の処方につ いても医師の指示をもらい薬局からの協力も 得るなど良い関係を築いている。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行 い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、医療関係者等と共にチ ームで支援に取り組んでいる	24時間対応可能な医療機関を利用する事により看 取りを行った経験もある。又、ご家族様の希望によ り、かかりつけ医と診察時間以外での対応方法の 確認を行い連絡を密にして看取りを行った事もある。 ご家族様の希望をその都度確認し、丁寧な説 明をし、主治医の指示のもと出来る限りご希望に答 えられるようにしていきたいと考えている。	入居時に本人や家族等へ看取りを行っている ことを伝え、終末期には主治医より家族等 へ状態説明をしている。終末期に利用者が 急変した場合には、家族等の希望に合わせ て救急搬送をしたり主治医と看護師とも連携 して看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部勉強会において、誤嚥時の対応、嘔吐物処理のシミュレーションを実施し、嘔吐物処理用具の保管の確認、消毒液の定期交換を行っている。又、消防隊員による救急救命講習会も実施し受講している。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災発生想定避難訓練を予定、実施している。3月は消防署立ち合いでの火災発生時の避難訓練、7月は火災発生時の自主避難訓練を実施した。又、7月は水害時避難の机上訓練を行い、避難方法、手順を確認した。	ハザードマップでは浸水想定区域のため避難指示の際は指定避難所へ避難するが、できなかった場合は2階ユニットへの垂直避難を指導している。水害を想定した机上訓練を実施したり、災害時の2階ユニットの避難方法について消防署からアドバイスを受けている。	夜間帯の勤務は職員2名体制のため災害時の避難には近隣住民からの協力が必要と思われる。運営推進会議の場で区長を通して近隣住民の協力が得られるよう体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬、感謝の気持ちを忘れずに温かい言葉、優しい言葉で言葉かけをするように心掛けている。又、地域性や個々の生活歴を踏まえて一人一人に合った言葉をかけさせて頂いている。方言も用いているが馴れ合いにならないように気を付けている。	利用者に対する言葉遣いについて職員会議での勉強会でその都度取り上げ、丁寧に親しみやすい声かけができるように統一している。利用者と会話する際には他利用者のプライバシーに関する話をしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いを聴くようにし、意思を尊重している。意思疎通が困難な方にも、これから何をするのか等を伝えてから支援するようにしている。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務や都合を優先するのではなく、入居者様、一人一人のペースに合わせて支援している。事前に計画がなくても、職員間で相談し、施設内の散歩やドライブなど行ったりしている。	天気の良い日には散歩やドライブにでかけて気分転換を図っている。利用者は敷地内の畑で栽培した野菜を職員と一緒に収穫し、採れたての食材を調理しておいしい食事を楽しんでいる。日課に縛られることなく利用者に合わせた暮らしができるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせお好きな服が着られるように支援している。入浴時の着替えの準備や衣替え等、出来る方は職員と一緒にやっている。定期的に散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方からいただいた旬な野菜や山菜を使い、季節を感じられる食事を提供している。山菜の下処理を一緒に行い、どのように料理したら良いか、保存方法等をアドバイスしていただいている。	職員は食材の買い物に行きグループホーム内で調理している。季節に合わせたメニューや利用者の食べたい物等を栄養バランスを考えて提供している。誕生日にはリクエスト食を提供し、週1回麺の日を決めて麺好きな利用者が楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量や食事量を記録に残し、不足している方には好みの物、食べ易い物を提供するなど工夫している。状態に応じてお粥、刻み食やペースト食などの提供もしている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には嚥下体操、顔のマッサージなど実施し、誤嚥防止に努めている。又、毎食後、口腔ケアを見守り、介助で実施し、希望者は歯科衛生士による専門的な口腔ケアを受けている。職員は毎月、歯科衛生士による助言を受けてケアの向上に努めている。	口腔ケアの際に状態に合わせて職員が義歯を洗い、夜間は義歯洗浄剤を使用している。歯科衛生士が訪問した時はケアの方法を指導してもらい日々の口腔ケアに活かしている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状態や頻度の記録を行い、個々の排泄パターンを把握しトイレの声掛け、誘導を実施している。適切なオムツ使用を心がけ、清潔が保てるように気を付けている。排泄の失敗に対しては、羞恥心に配慮した声掛け、対応を行っている。	トイレの場所がわからなくなる方もいるため貼り紙をし、また定時の他にタイミングに合わせた誘導もしている。失敗をした場合はプライバシーに配慮し、他の利用者のいるところでは小声で部屋へ誘導している。また衣類等の交換は自尊心を傷つけないように丁寧な対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に野菜ジュースや乳飲料を取り入れている。水分摂取も促し、毎日、体操の時間を設け適度な運動もできるように支援している。排泄の記録をつけ、異変があれば主治医と連携し対応している。又、ご家族様の希望で個別に乳酸菌飲料を毎日飲まれている方もいる。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調や希望に沿った入浴をしていただいている。職員と一対一で会話をしたり、時には歌を歌ったりとゆったりとした気持ちで入浴を楽しんでいただけるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしていただき、夜間ぐっすり休んでいただけるように支援している。消灯時間は定めていない為、遅くまでテレビを見て過ごす方もいて、ご自分のペースで過ごす事ができる。又、体調や希望によっていつでもベッドで休んでいただく事ができる。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関や提携薬局の指示のもと、服薬管理を行っている。特に処方が変わった際には、職員間で情報を共有して体調の変化に注意している。症状の変化や服薬し易い薬の形状に変えてもらうなど、その都度、相談している。	薬はまとめて連携薬局に処方箋をFAXし宅配してもらい、不明な点はその都度アドバイスを受けている。服薬はダブルチェックして誤薬防止に努め、さらに服薬後の空袋は1日分まとめて保管し誤薬がないことを確認してから夜勤者が廃棄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意とする事、持っている力を活かして家事に参加していただいている。洗濯物干しやたたみ方、廊下の隅々までモップ掛けをしていただいたりしている。季節の行事や日々のレクリエーションなど楽しみにされ喜んでいただいている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症予防の為、外出はできていないが、今後の状況をみながら、ご家族様との外出、外食を実施していきたいと思っている。車椅子使用の方の外出の際は施設の社用車にて送迎を行っていた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、ご家族様と相談の上、お小遣いを持っている方もいる。現在は買い物に出掛けていないが、買い物に出掛けた際には、ご自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時には職員のサポートのもと電話をかけている。手紙も自由にやり取りができ、お子様やご兄弟、親戚の方との手紙のやり取りを楽しみにされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには料理をしている音や匂い、入居者様の作品、職員が作成した掲示物や花壇で咲いていた花が活けてあり季節や生活感が感じられる空間になっている。室内には温度、湿度計を設置して1日3回の点検で快適に保たれている。コロナウイルス感染予防対策として居室、リビングの換気手すりやテーブル、椅子などの消毒を徹底している。	快適に過ごせるように季節に応じて温度調節して、感染症対策のため定時の換気と湿度管理を行っている。さらに食堂には空気清浄機や加湿器も設置している。レクリエーションで一緒につくった作品を共用空間に飾り皆で楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人達で語らいの場を持ったり、テレビを見たりできるようにリビングにはテーブルを配置している。又、テーブル席から少し離れた所にソファを置き、独りや少人数で過ごしていただける空間も設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持ち込みは自由にしており、自宅で使用していた馴染みの物を持ってきていただけるようにご家族様にお願いしている。ご家族様やお孫様の写真、ご家族様からのプレゼントやお好きな観葉植物を置いている方もいる。	自宅で使っていた馴染みの品物を持参してもらい、自宅と同じような雰囲気で生活ができるようにしている。家族と一緒に撮影した写真や自分で作った作品を飾って居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かりにくい方には、プレートを付けるなどで分かり易いように対応している。個々の状態に応じて手すりを設置したり、ベッドの位置を工夫したり、車椅子、シルバーカーを使用される方には、動き易いように周りの環境を整えて安全に配慮している。		